

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092400025		
法人名	株式会社 彩華舎		
事業所名	グループホームさら		
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉831-58		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮704-2
訪問調査日	平成25年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域の中で、共に助け合いながら、共に喜び合い、共に過ごしていく、そんなホームを目指しています。</p> <p>・共同空間における居場所の確保を行っています。思い思いに、また、気のあった御利用者同士で、のんびり過ごす空間。 ・その人らしく、ありのままに、思い思いに過ごせて頂けるように、職員はそのお手伝いができるようにと努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“本人の思いを尊重する支援”を目指し、その人の日常生活を観察・記録し、ホーム内の人間関係を含めて、その人の希望に沿った暮らしができるよう支援している。毎月、利用者の日常の様子(季節の行事・役割・楽しみごと・畑仕事等)が伝わってくる写真を掲載した「さら便り」を発行しており、紙面から生き活きと生活している利用者の様子が伺える。職員が直筆の手紙で、利用者の生活の様子やエピソード等を家族に報告している。鍵をかけないケアを実践しており、職員の温かい見守りの中で、利用者が伸び伸びと暮らしているように見受けられた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員各自考えた理念を職員同士で再検討し、事業所が目指す地域密着型サービスのあり方を示した、理念を作りあげた。その理念をスタッフ会議時などに、日々の行動と照らし合わせ理念を共有している。	管理者と職員はスタッフ会議時等で、理念に沿ったケアが出来ているか確認し合っている。“その人らしく・ありのままに・ゆったりと”をモットーに、理念を共有して実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人達には散歩時に挨拶をしたり、隣組に加入したりと関係を築いている。また、避難訓練に来てもらうだけでなく、お茶を飲みに来てもらったりボランティアを紹介してもらったりしている。	隣組に加入しており、近隣の人達に回覧板で避難訓練等への参加を呼びかけている。民生委員の協力を得て、演奏ボランティアが来訪している。小学校から敬老の日に手紙が届いたり、保育園児の慰問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の勉強会を行ったり、町で行う認知症サポーター養成講座の認知症寸劇への参加協力など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、近況報告や意見等を頂くと共に、御利用者様・御家族様との親睦も深めて頂いている。避難訓練にも参加をしてもらっている。	運営推進会議は今年度5回開催されている。運営状況や外部評価の報告、避難訓練や認知症勉強会等を実施し、意見交換を行っている。開催時に町の担当者が参加していない回がある。	運営推進会議は、事業所の運営や現場の実情等を伝える貴重な機会である。年度内に6回の開催を期待したい。町の担当者には毎回の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、御利用者様の方々の入居状況及び活動報告書を作成し報告している。また、事業所便り「さら便り」を報告書とともに提出し御指導して頂いている。	毎月、管理者が町役場に出向き、利用者の報告、「さら便り」、運営推進会議の議事録等を届けて指導を受けている。町主催の認知症サポーター養成講座の寸劇に参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアを実践している。今年度より法人全体で職員研修を実施し、倫理規定などの浸透に努めている。	日中の玄関の施錠を含め、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。管理者は会議や日々の生活の中で、身体拘束の内容について職員に指導を行っている。利用者が外出しそうな時は、言葉をかけたり、職員が見守りながら一諸に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を事業所内で行っている。また、虐待を生み出さないよう、介護ストレスや人間関係を常に把握・調整に努めています。会議でも虐待事例を挙げ、啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について職員に説明を行っており、理解・把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解除時には運営規定や重要事項説明書等に基づいて、家族の納得が得られるよう十分な説明を行うよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には第三者相談窓口・苦情相談窓口に関する内容を書類と共に説明しており、また、玄関には苦情・要望に関する意見箱を設置している。	月1回、「さら便り」を発行している。職員がA4版サイズの用紙に生活の様子を細やかに記載し、家族等に報告している。運営推進会議や家族等の来訪時には、意見や要望等を聞くように努め、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議だけでなく、職員とは定期的に個人面談を行っている。日常的にOJTとして指導を行う中で、意見を聞くようにしている。	月1回、職員会議の際には、職員全員の意見を聞くように努めている。年2回、個人面談を行っている。職員の意見や気づきを運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に心じた課題・目標に対して、個別指導も含め行っている。また、賞与時などには個別面談を行い、職員のこれまでの取り組みの成果・反省を共に確認し、次の目標を一緒に考え、達成できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で独自に定期的に研修会を実施しており、教育支援体制が行われています。また、個別の指導や能力にあった外部研修への参加の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域内だけでなく、地域外のグループホームとの交流を大切にし、相互間訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者からの相談・訴えを受容し、気づいた事や相談内容・訴えは記録や申し送りなどで情報共有を図り、統一した関わりが持てるよう行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、これまでの生活状態・心身状態を聞き取り、問題となっている事や要望を明確にした上で、ホームでどのように過ごしていきたいのかを最終的に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の心身状態や経済状況などを勘案し、当事業所以外のサービスが適していると判断された場合は、他サービスを紹介するなどの相談・調整・支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者が昔やっていたおやつ作りや畑など取り入れ、私たちの知らない発見が様々あり、共に暮らすといった関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には日頃から生活状況を伝え、状況に応じて協力して頂ける関係作りを努めている。また毎月の生活を記した直筆の手紙を書いて送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に面会時間なども制限せず、知人・友人などの面会時にも、お茶を出しゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。	友人・知人・家族等の来訪時には、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮をしている。いつでも自由に、家族等と外食に出かけたり、自宅に泊まりに帰っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者の方々の一人一人の「らしさ」や、他者の方々との人間関係の様子を考慮し、ご本人の意向を重視させて頂きながらレクリエーションや家事支援等への参加活動がスムーズに出来るよう職員は段取り設定を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、御家族が来園されたり、訪問に伺わせていただく関係にある方はいる。関係性を保ちながら、必要に応じては相談・支援を継続して行っていくよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情等から本人の意思を推測し、それとなく確認している。意思疎通が困難な方には御家族などから情報を得るようにしている。	本人の言葉や表情等の中から希望や意向を汲み取っている。職員全員が観察情報を記録し、本人の暮らし方の希望やホーム内での人間関係等の把握に努めている。家族等から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中、御利用者の身の上話や御家族や友人から面会時に聞いた事などを記録に残し、ケア状況に応じた関わりの中で声かけを工夫したりして活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務時間帯でその方の過ごした様子を記録に残すようにし、御利用者の方々一人一人の個別した生活のリズムを理解し、行動や言葉、表情からその人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員と共にケアマネが御利用者の意向や状況の観察を行いながら、また御家族のニーズもお聞きし、主治医や看護師とも意見交換を行い、介護計画を作るように努めている。	本人・家族等の思いや意向を聞き取り、カンファレンス等で話し合い、意見等を反映させた介護計画を作成している。毎月のモニタリング、3ヶ月に1度の定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の実践情報や観察、気づきは申し送りの他に個別の記録に残し、カンファレンスやスタッフ会議で検討仕合い、全職員が周知しながら進めている。また、変更した後も、再度見直しを行うよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全職員は日頃から御利用者や御家族の意向を十分に把握しサービス提供出来るよう柔軟な体制を敷き、信頼関係を築けるよう努め、その時々に応じた支援が円滑に出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回、保育園の慰問が来られ交流を図っている。運営推進会議のメンバーが遊びに寄ったりしてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期往診や、体調状況に変化があった際には、御家族へすぐに状況報告を行い、受診への承諾も頂きながら状況に応じて、ホーム協力医を活用するよう診療体制をとっている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族等の都合で付添いが出来ない場合は、職員が代行して受診結果を報告している。2名が協力医の往診を受けており、希望により歯科の往診も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地元地域の正看護師を職員として配置しており、対応や受診などに関し随時相談・連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より御利用者の心身の不安を少しでも軽減出来るよう御家族と担当医師さんや看護職員の方々と随時話し合いを設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医師や看護師との連携を密に行い、御家族と共に終末期に関しての今後の方向性を話し合う機会を段階に応じて行っている。	「看取りに関する指針」を作成し、入居時に本人・家族等に説明を行っている。段階に応じて、家族等と話し合い、主治医・看護師等と連携を図りながら、支援に取り組んでいる。1名の看取りを行っている。職員は看取ることの意義や振り返りの話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え全職員に緊急対応マニュアルを確認してもらい、また半年に一度の避難訓練時に応急救護の指導も消防署より直接指導を行って頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、消防署の方の指導の下、避難訓練・消火訓練を行っています。非常持ち出し袋も常備している。訓練には地域の方々にも回覧板で参加を呼び掛けている。	年1回、消防署の立会いで総合防災訓練や応急救護訓練を実施している。地域住民も参加している。年1回、自主防災訓練(通報・避難誘導訓練)を実施している。非常持ち出し袋を常備している。	災害時に、利用者や職員が確実に避難できるように、避難誘導訓練の回数増加に期待したい。災害に備えて飲料水や食料等の準備をしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は入職時に守秘義務に関する誓約書に記名している。また、馴れ合いにならず、尊厳を守った声かけ、対応を行っている。例では排泄時に、他者の聞こえない場所や声の大きさを抑える配慮を行っている。	馴れ合いの中で、利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう、会議で話し合い、日常の業務の中で注意を払っている。排泄誘導時の言葉かけや入室時等に配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者の方々が馴染みやすい、また理解しやすい言葉かけで自己決定がしやすいように努めている。また、希望や意向が表しやすい様、職員との馴染みの関係を築けるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、消灯、起床時間を定めず、状況に応じて自由に過ごせるように努めている。また、意思が表現しにくい方には、何をしたら喜んで頂けるかなどを考え支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを重視した対応に努め、御利用者の方々に選択して頂いている。また、理解困難な方には職員が季節感のある服装を提案したり、御家族の好みをお聞きし対応させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者の方々一人一人の咀嚼、嚥下能力に合わせた形態や量の調整や好みも重視し食事を提供している。野菜の皮むきや、下ごしらえ、テーブル拭き等、出来る範囲で家事作業に参加して頂いている。	利用者は野菜の皮むき等を職員と一緒に、同じテーブルを囲み食事をしている。献立作成・食材は外部から取り寄せているが、利用者の希望により献立の変更やおやつ作りを行っている。外食やおやつを買いに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を把握し、常に数種類揃えており、時間にこだわらず随時、飲みたい時に飲んで頂き、水分が一日の必要量摂取出来るようにしている。食事にもその方に応じた食事量・形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って頂いている。必要に応じては声掛け、見守り、介助にて洗浄行い、夕食後には義歯をお預かりして義歯洗浄剤に浸け、翌朝にお返ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意を訴えない方に対しても、安易にオムツを使用せず、排泄記録表、排泄の兆候から排泄リズムの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄が行えるよう努めている。	排泄記録表で個々の排泄パターンを把握し、排泄のサイン(表情・行動・言葉の表現)を確認しながらトイレ誘導を行っている。安易にオムツを使用せず、トイレでの排泄を大切に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や軽作業、入浴時、トイレ時などに腹部マッサージを行っている。また水分摂取量の調節や食べ物(プルーン・ピルクル等)も取り入れ、排便サポートを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御利用者が気持ちよく入浴できる時間に沿うように、業務として入浴の時間帯や曜日は設定しないようにしている。	日曜日を除き、毎日入浴できる体制になっている。本人の希望に沿って午前・午後・夕方に入浴支援を行っている。入浴拒否の場合には、言葉かけの工夫や時間の変更等に対応している。同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者の方々の一人ひとりの疲労度や生活リズムの把握に努め、自然な休息・入眠が出来るよう声かけを工夫しながら対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各薬の効能や用法については看護師より正しい確認・方法を指導してもらい、職員が一人一人の疾病を把握し、服薬に関しては飲み込むまで見守りを行い確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お互いの関係を調整ながら生活歴に合わせた仕事や役割となっている事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健脚な御利用者のみならず、車椅子の方でも近隣を散歩出来るようお誘いしている。お花見や近隣住民への挨拶など車で外出する機会も設けている。	近隣への散歩、買い物や外食、季節毎の花見、ドライブや系列事業所への訪問等に出かけたり、個別に墓参りに出かけている。誕生日には、その人だけの希望に合わせた外出支援を行っている。戸外に出て気分転換が図れるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は御利用者個人で金銭を所持している方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りなどが支障なく行えるよう職員が仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには毎日様々な季節の花を飾り心和むよう心がけている。また、外庭には季節の花が咲いており、居間からも季節感を感じられる環境を心がけている。	食堂・居間のテーブルには、季節の花を飾っている。プランターに季節の花を植えたり、グリーンカーテンを作っている。居間からは木々の緑や季節の花が眺められる。“さら農園”では皆で畑を耕し、成長を見守り、季節の野菜を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋を多目的に使用している。静かに過ごしたい方や読書をしたい方、また、テレビを観たい方などそれぞれがそれぞれの居場所を見つけられるような各場所にソファや椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や身の回り品等、御利用者の使い慣れたものを持ち込んで頂くよう入居時から御家族には働きかけている。	各居室には、筆筒・鏡・寝具・洋服・時計等、馴染みのあるものや思い出の品が持ち込まれ、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様がご自身の部屋であるのをすぐに確認出来るよう表札を設置したり、廊下の途中でソファを置き、途中で休みながら、自立で居室へ行けるよう、生活行動範囲も考慮している。		